

【5学年のまとめ】

1. 学年の取組

高学年の「親切・思いやり」の指導項目は、「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする」である。お互いの身になって考え、誰に対しても思いやりの心で接することは、より良い人間関係を築くだけでなく、明るく住みよい社会を築くことにもつながる。しかし、普段の生活の中では、自己中心的な考えや、打算的な考えによって相手の立場になった行動ができないことがある。さらに、普段の生活であまり関わりのない人に対して、相手の気持ちを考えた行動を行うことは、さらに難しくなる。児童は、相手を思いやり、相手の立場に立って考え行動することができる発達段階である。1学期には、相手の立場や気持ちを考え、温かく親切にしようとする心情を育てるために「ノンステップバスでのできごと」で困っている人に親切にしていきたいという気持ちを持った。しかし、困っている人がいたら声を掛け助けてあげることが良いことだと分かっているにもかかわらず、勇気を持って手を貸してあげることが難しいことが多々ある。

児童の実態を把握するためにアンケートを行った結果、「親切にしたいけれど、親切にできなかった児童が12人いた。親切にできなかったか理由として「恥ずかしくてできなかった」「迷惑だと思われる」「気まづかった」「親切にしているのか分からなかった」「勇気が出なかった」が挙げられた。そこで、例えば、人に認められなくても、相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接することの大切さに気付けるようにするとともに、主人公の行為を自分事として考えられるようにしたいと考えた。

本時では、「親切とは何か」を最初に話題にし、教材文の主人公に共感させ、自分だったらどうするか考えさせた。課題に対して考えることで、問題解決的な学習を活用して価値にせまった。困っている人を見かけたときの気持ちを考えられるよう、「わたし」に感情移入するように促した。そして、親切にするとは、何かを考えさせ、「親切」について考えを深めた。価値について自分の考えを持ったり、友達の様々な考え方に触れたりすることで、相手の立場になって考え、見返りを求めない親切があることに気付くことができた。

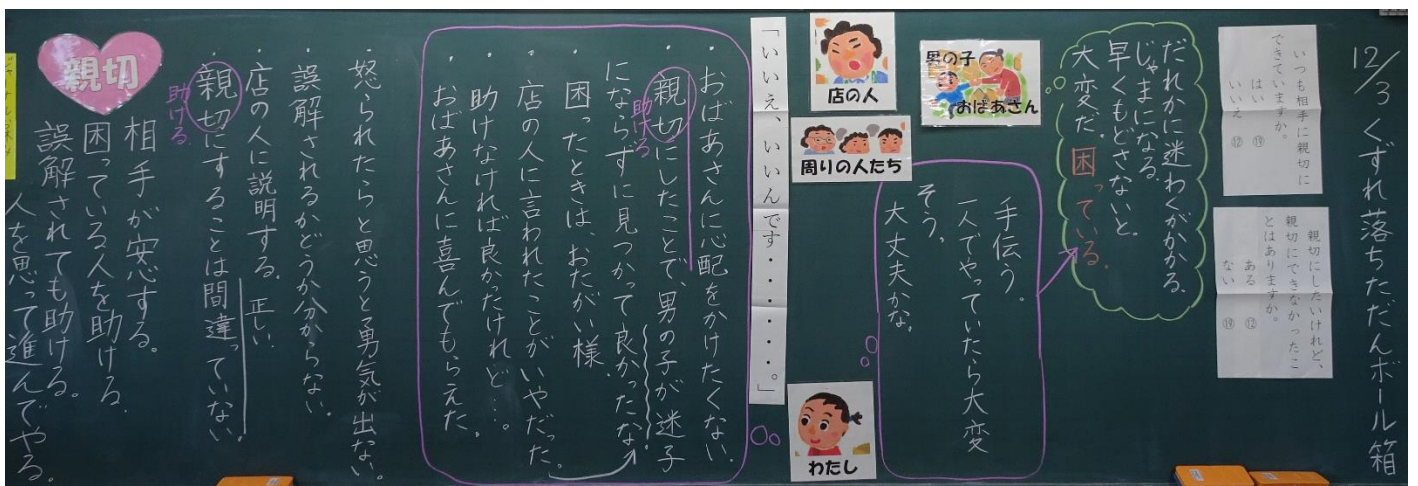
2. 授業実践について

主題 内容項目【B-(7) 親切・思いやり】

本時のねらい 今まで自分（児童）が考えていた親切とわたし（主人公）が考えた親切を比較する活動を通して、見返りや結果を期待するのではなく、相手のことを思いやってする行動であることに気づき、進んで親切をしようとする態度を養う。

教材名 くずれ落ちただんボール箱（出典「新しい道徳5」東京書籍）

授業者 5年2組 樋田 美帆



【授業の流れ】

- ① クラスで行った親切についてのアンケート結果を知る。
- ② アンケート結果から本時のねらいを知る。
- ③ 困っている人を目の前にしたとき、「わたし」はどんな思いか話し合う。
- ④ 次に困っている人を見かけたときの「わたし」はどんな思いか話し合う。
- ⑤ お店の人に誤解されたままだったとしても、「わたし」は親切にしようと思うか話し合う。
- ⑥ 「親切」に対して自分なりに考える。
- ⑦ 自己の振り返りをする。
- ⑧ 教師の説話を聞く。



児童の振り返りより

「親切とは、何ですか。」

- ・お礼を言われなくても親切にすること。
- ・困っている人を助けたり、優しくしたりすることであり、勇気を出して行動することが大切だ。
- ・親切とは、相手の気持ちを考え、行動することであり、誤解されたとしても間違っていることではないので、相手に親切にしていきたい。
- ・相手のことを思いやって行動することだ。
- ・相手を考えて行動することの大切さを感じた。

3. 成果と課題

○おばあさんの心情を考えたのはよかった。それに対する私の思いを書いた板書が分かりやすかった。

○発問の流れが自然でよかった。

▼アンケートを利用したことで、導入がコンパクトでよかったが、教材文へのつながりが見えなかった。アンケートで何を聞くかは重要。効果的な導入ができれば、考える必要感を持って授業に入れる。「親切について考えていこう」という一言があってもよかった。

▼「いいえ、いいんです・・・」の両面の気持ちを板書で書き分けると視覚的に分かりやすい。

▼切り返しの発問はタイミングと内容を精選して行うことが大切。

▼時間があれば、手紙を読んで、褒められたことで、もやもやした気持ちがすっきりして、うれしい「わたし」の気持ちを出してから考えさせてもよかったのではないかと。「誤解されたまま」ではなく、「手紙が届かなかったとしても」の方が自然だったのではないかと。

▼「店員さんに説明する」という発言に対して、「どうしてそこまでの？」や、分かりにくい発言に対しては、「それってつまりどういうこと？」と切り返しが必要。班ごとの話し合いは素直に自分の考えをたくさん発言できていたので、それがクラス全体でできるといい。